

日本の計画系教育の状況 - 全国大学分析 -

千葉大学服部研究室

はじめに

世界建築家連合UIAやJABEEの動きを背景として、計画系教育プログラムが変革を求められている中で、わが国の大学の計画系教育は、設計、計画、都市、農村、歴史意匠など極めて幅広い分野に及んではいるものの、日本全体としてみた場合その内容は十分に把握されたものになっていない。そのため、アンケート調査によって、日本の大学の計画系教育の実態を明らかにし、今後の計画系教育に関する基礎的情報を整理することを目的とする。

1. アンケートの概要

(1) アンケート調査

計画系教育に関する基礎的情報として必要な情報と思われる事項をまとめて調査票を作成し、日本の4年制大学の建築系学部(大学院)学科の学科主任宛てに送付し、返送していただいた。アンケート項目によっては、記入そのものの作業量が多いため、回答の代わりとなる資料を送付いただいた。

(2) 調査項目

調査は、教育上の特徴、学科教育、大学院教育の大きく3項目からなる。調査項目は以下の通りである。

教育上の特徴

- ・キーワード(学科概要、要覧等)

学科教育の内容

- ・組織構成

- ・分野(講座)名称と研究室の一覧
- ・分野(講座)別教員数
- ・研究室(4年次)ごとの学生定員と実際の人数
- ・学科(専門科目)のカリキュラム構成
- ・シラバス・時間割
- ・卒業後の進路(2001年度)

大学院教育の内容

- ・組織構成

- ・分野(講座)名称と研究室の一覧
 - ・分野(講座)別教員数
- ・研究室ごとの学生定員と実際の人数
 - ・大学院(修士課程)のカリキュラム構成
- ・シラバス・時間割
 - ・修了後の進路(2001年度)
 - ・博士号取得人数

(3) 調査時期

2002年5月20日 アンケート票送付

2002年6月10日 回収締切り

(4) 回収結果

日本建築学会の「大学名簿(2001)」、日本の4年制大学の建築系学部学科165校、建築系大学院10校、その他関連学科3校、計178校を抽出し、学科主任宛てにアンケート票を送付した。

アンケート調査の結果、国立大学22校、公立大学4校、私立大学40校、計66校から回答を得た(回答校一覧は巻末)。なお、1つの大学の複数学科から回答があるため、分析対象数はこの数よりも多い。

また資料の制約から、分析項目ごとに有効回答数も異なる。

(5) 分析

以上の調査で得られたデータをデータベースにまとめ、分析を行った。分析の結果、いくつかの知見を得ることができたが、詳細な考察をするまでにはいたらなかった。ここでは、データを整理・分析することによって得られた、日本の大学の状況についてのみを紹介する。

2. 計画系教育の状況

(1) 学部教育について

回答大学の属性

学部教育について回答を得た大学は、計 72 校あり、その内訳は国立大学 22 校、公立大学 3 校、私立大学 47 校である。

そして、これら 72 校の中から十分なデータが揃っている約 30 校を中心に分析した。

回答学部・学科の種類

(a) 学部一覧

研究科についてみると、国公立大学、私立大学とも、工学部が多かった。

	国公立	私立	全体
工学部	19	29	48
理工学部	1	2	3
芸術学部・芸術工学部	1	3	4
環境学部・地域環境科学部	0	2	2
デザイン工学部・工芸学部・造形学部	1	3	4
建築工学部	0	1	1
システム工学部・社会開発工学科	1	1	2
生活科学部	1	2	3
計	24	43	67

(b) 学科一覧

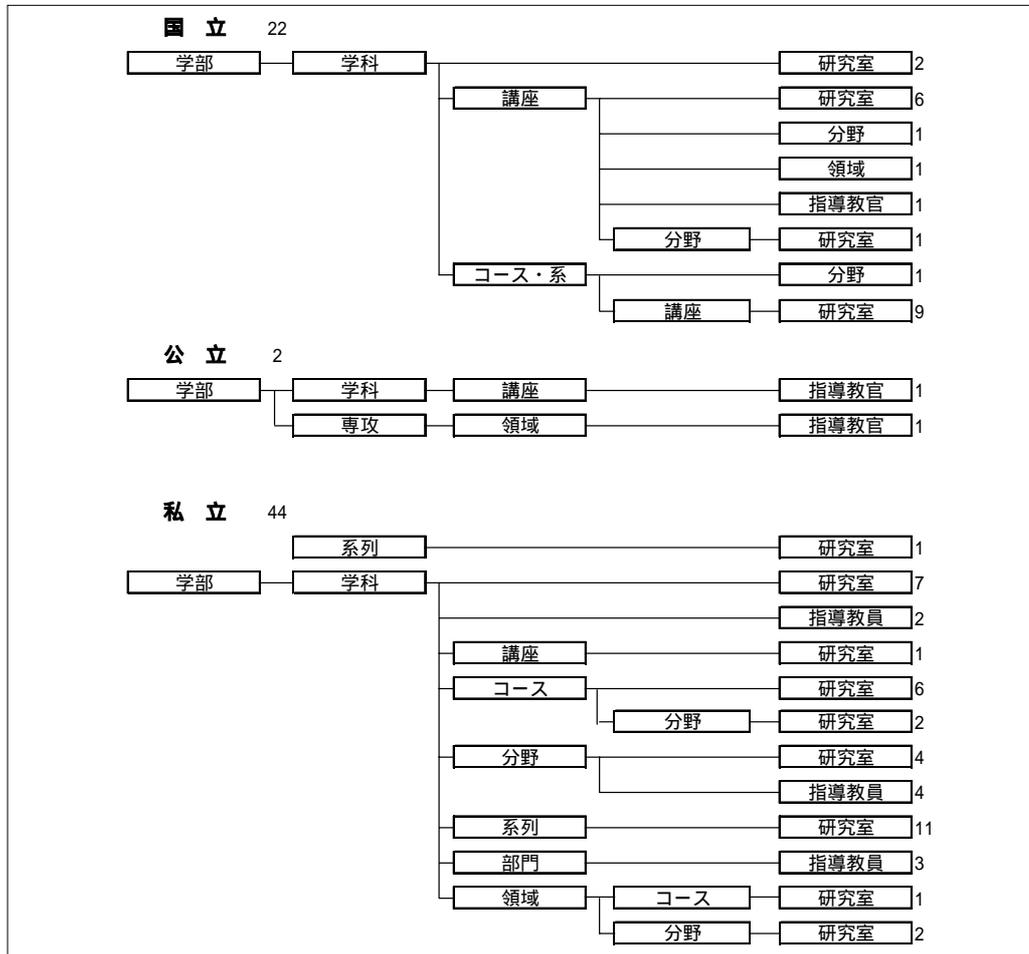
学科別では、全体として建築学科が多く、特に私立大学で多くみられたが、大学ごとに多様であった。

	国公立	私立	全体
建築**学科	8	29	37
建築都市学科・建築都市デザイン学科	1	0	1
建設学科・建設工学科	2	2	4
生活環境学科・居住環境学科	2	2	4
デザイン学科・デザイン工学科・工業意匠学科・造形工学科	2	4	6
環境**学科	2	5	7
社会**学科	3	0	3
都市**学科	1	0	1
土木工学・土木工学科	1	0	1
造園科学科	0	1	1
地球総合工学科	1	0	1
計	23	43	66

組織体系

学部から最小単位である研究室や指導教員に至る、組織体系を大学別に図示した。

国立大学では「学部 学科 コース・系 講座 研究室」という体系、私立大学では「学部 学科 系列 研究室」という体系が、比較的多く見られたが、体系は大学ごとに多様であることが伺われた。



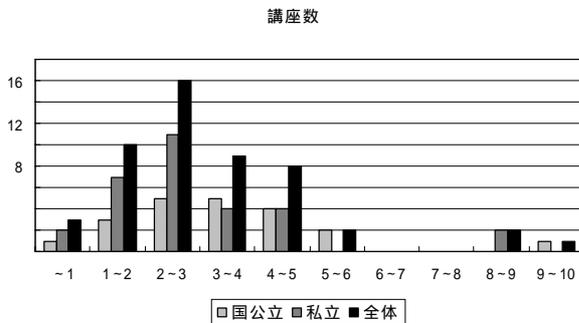
講座の種類

(a) 講座数・研究室数

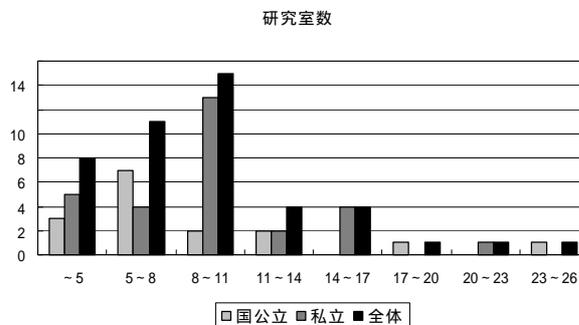
講座数、研究室数ともかなりのばらつきが見られるが、講座数は2から5、研究室数は6から11程度に集中している。講座数には国公立大学と私立大学との差はみられないが、研究室数では私立が8から11の間に集中しているのに対して、私立大学ではこの間に該当するものがなかった。

	講座数	研究室数
最小	1	5
最大	10	27
平均	5.5	16.0

講座数



研究室数

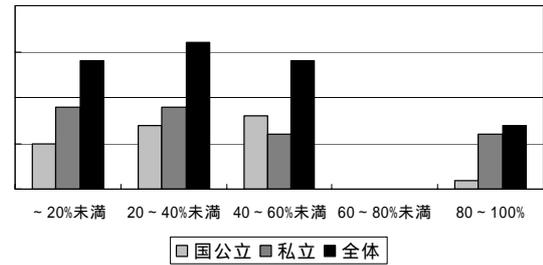


(b) 計画系講座・研究室の割合

建築計講座中の計画計講座の割合は、20%~60%の間に均等的に分布している。ただし、大学によっては計画系、構造系、その他の分野の研究室が混ざった、特色のある講座を設置しているところもある。建築系講座中の計画系講座の割合

	国公立	私立	全体
~20%未満	5	9	14
20~40%未満	7	9	16
40~60%未満	8	6	14
60~80%未満	0	0	0
80~100%	1	6	7
計	21	30	51

建築系研究室中の計画系研究室の割合



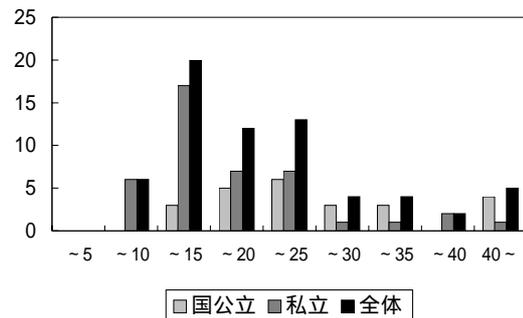
教官・教員

(a) 常勤教員数

学科に属する教員数の分布は2つのピークがある。これは私立大学が11~15人を頂点とした左に片寄った分布と国公立大学の21~25人を頂点とする分布が重ねあわされたためと考えられる。

また国公立大学では教員数40人以上の大学も見受けられた。

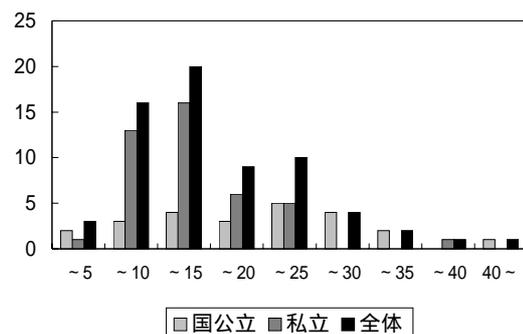
学科に属する教員数



(b) 建築系教員数・教員の割合

学科に属する建築系の教員数を見ると私立大学では、ほぼ「学科に属する教員数」と同様な分布を示しているのに対し、国公立大学では分布が左側に片

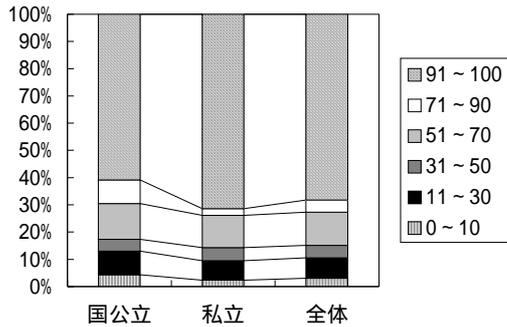
学科に属する建築系の教員人数



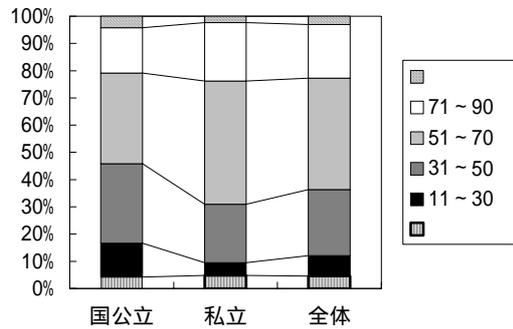
寄り、11～15人と21～25人の2つのピークを描くような分布となっている。

また、建築系の教員比率をみると、建築系以外の教員と同居している形の学科が全体で30%近くある。このような形の学科は国公立大学のほうが私立大学よりも若干多いようである。

建築系教員比率



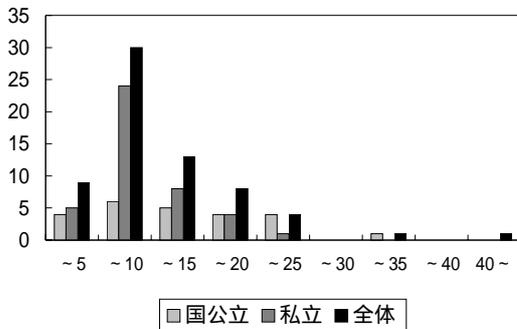
計画系教員比率



(c) 計画系教官数・教員の割合

国公立大学では5人未満から21～25人までかなり均等にばらつきがあるのに対し、私立大学の場合は6～10人に半分近くが集中している。

学科に属する計画系の教員人数



学科全体に対する教員の比率を見ると国公立大学、私立大学の違いはほとんどなく、私立大学では計画系に偏った(51～70%)大学が若干多く、構造系に偏った(31～50%)大学が若干少ないようである。

教育上の特色

学部教育の特色がデータとしてまとめられたのは、19の国公立大(内、帝大6校、その他13校)、43の私立大学の計62校であった。

特色として位置づけられる計画系教育のキーワードを複数回答していただいたが、当然のことながら、それぞれの大学において、特色は様々であった。

ここでは、キーワードを大きく「体制」「目標」「方法・内容」「その他」の4つの大項目で括り、さらに似た内容をもつ22のキーワード項目で括った。その結果が右表に示すものである。

教育体制では「少人数教育」「単位・カリキュラム」が、教育目録では「資格教育」「技術教育」「姿勢教育」が、教育方法・内容では「総合的・融合的教育」「演習・体験・実習教育」が特色として取り上げられている傾向が比較的強かった。

また、私立大学では「コース制」「教授陣」「想像力教育」「資格教育」「個性教育」「国際化教育」「基礎教育」「ものづくり教育」などで、国公立大学には

あまりみられないキーワードを特色に挙げる傾向がみられた。

特色として位置づけられる計画系教育キーワード項目

キーワード		旧帝大	国公立	私立	全体
教育体制	コース制	0	0	9	9
	少人数教育	2	4	8	14
	学年配置	0	0	2	2
	教授陣	0	0	6	6
	単位・カリキュラム	1	3	9	13
教育目標	想像力教育	0	0	4	4
	資格教育	0	0	11	11
	技術教育	3	5	6	14
	造形力・芸術力教育	4	1	7	12
	個性教育	1	0	4	5
	国際化教育	0	0	6	6
	姿勢教育	5	6	9	20
教育方法・内容	総合的・融合的教育	3	7	20	30
	基礎教育	0	3	14	17
	専門教育	3	0	9	12
	演習・体験・実習教育	2	8	20	30
	学外教育	1	2	7	10
	ものづくり教育	0	0	5	5
	学生交流	0	0	3	3
	コンピュータ・情報処理	0	1	10	11
	伝統・地域	0	3	9	12
環境	0	0	3	3	
その他	2	5	12	19	

計画系教育キーワード一覧(旧帝大)

教育体制 少人数教育(2) 少人数教育 少人数教育 単位・カリキュラム(1) T字型の4年一貫教育カリキュラム	自ら考えながら学ぶという積極的な姿勢 問題解決型教育 問題解決型能力と問題提起型能力
教育目標 技術教育(3) ジェネラリストとしての建築家・建築技術者の育成 実務に直結した教育体制 建築・都市的基礎知識をもった人材の育成 造形力・芸術力教育(4) 空間の形成原理の解明 空間を構成するための造形能力 総合性を培う造形基礎 芸術的感性 個性教育(1) 個性を生かし創造性をのばす教育 姿勢教育(5) 学問に対する謙虚な姿勢 真理に対する飽くことのない探究心	教育方法・内容 総合的・融合的教育(3) 複眼的視野に基づく総合学 幅広い認識と分析力・想像力・総合力 各専門分野の知識の総合 専門教育(3) 現状認識のための調査分析の能力 方法を学ぶ 空間構成計画、設計、都市計画の方法 演習・体験・実習教育(2) 演習重視 建築学の多様性と総合性を体得する演習 学外教育(1) 社会等と連携した教育
	その他(2) TAの活用 歴史的考究に基づく洞察力

計画系教育キーワード一覧(国公立大)

教育体制 少人数教育(4) 少人数教育 少人数教育 少人数クラス教育 勉学や建築に関する総合的な個別指導 単位・カリキュラム(3) バランスのよい科目構成 クサビ型カリキュラム 卒業研究と卒業設計の必修	造形力・芸術力教育(1) 感性を養う芸術 姿勢教育(6) 柔軟性と創造性 社会の要求を解決できるデザイン能力の養成 コミュニケーション能力 PLAN, DO, SEE 双方向教育 論理的な思考力、記述力、口頭発表力の醸成 建築の多様性、地域性、公共性の理解
教育目標 技術教育(5) 技術者としてのセンスの涵養 創造的で自立的な研究者・技術者の育成 広い分野を担当できる優秀な技術者の育成 もう一つの技術・代替技術 技術的知識の習得	教育方法・内容 総合的・融合的教育(7) 多様な学問内容のバランスよい修得 総合的デザイン デザインの総合 地域的視点から国際的視点までの幅広い知識の総合化 バランスのとれた専門教育

<p>教育方法・内容</p> <p>数学・自然科学・情報技術の知識 芸術と工学の融合</p> <p>基礎教育(3) 建築全般の知識 基礎教育の充実 幅広い基礎知識の習得</p> <p>演習・体験・実習教育(8) 実践的教育 演習や実習を中心とする創造的カリキュラム 体験的学習 工学・人文・社会科学などの多様な知識を総合化 芸術工学の実習 多彩な演習・実習 現場実習 地域社会と連携する体験学習型の授業</p>	<p>学外教育(2) 卒業設計展による社会への発信 市民のための工学 コンピュータ・情報処理(1) 情報システム 伝統・地域(3) シビック・デザイン 環境修復 地域適合型技術</p> <p>その他(2) 健康的生活環境 生活環境 建築や都市の概念 建築・都市空間 設計・製図能力</p>
---	--

計画系教育キーワード一覧(私立大)

<p>教育体制</p> <p>コース制(9) コース制 コース制 コース制 コース別教育 コース選択性 コース(学系)制 幅広い環境からとらえた3つのコース 「造形デザイン・建築学・福祉環境学」3つの専門コース 学科とコースの変更がきく</p> <p>少人数教育(8) 少人数教育 少人数教育 コース別・少人数・グループ別など徹底した個人指導 少人数クラス別授業 輪講による少人数教育 少人数教育・チームティーチング 少人数で行う卒業研究 設計製図少人数教育</p>	<p>学年配置(2) 低学年からのゼミナール教育 3年後期からの研究室所属</p> <p>教授陣(6) 多彩な教授陣 第一線で活躍する講師の講義・演習 著名建築家・非常勤講師陣 第一線で活躍する建築家を含む多彩な非常勤講師陣 外部の建築家や技術者の非常勤講師 幅広い教授陣の構成と教育環境</p> <p>単位・カリキュラム(9) 海外研修・コンペ参加による単位修得 多い開講単位数 必修科目を最小限に選択科目を最大限に 豊富な選択科目 共通カリキュラムの拡充により学生の多様なニーズに対応 充実したカリキュラム 必修科目の原則廃止 正科外の教育 適正別クラス別授業</p>
<p>教育目標</p> <p>想像力教育(4) 豊かな知識と想像力を兼ね備えた人材育成 実際の想像力を育む 創造性をはくむ建築模型や都市模型を囲んでの対話 想像力を高めるために対話重視の教育</p> <p>資格教育(11) 建築家教育 + 建築技術者教育 即戦力の人材を育む 一級建築士取得に向けた即戦力育成のカリキュラム 一級建築士取得に向けた即戦力育成のカリキュラム 建築士資格試験への対応 建築家の養成 一級建築士を目指す 建築士への道 一級建築士受験に必要な知識と技術の修得 プロの建築家を目指す 技能や資格を習得</p> <p>技術教育(6) 建築の工学的分野に重点 実践的なエンジニアの育成 建築技術者の養成 高度な技術を習得 社会に貢献できる建設技術の修得 広く人材教育</p> <p>造形力・芸術力教育(7) 造形力 実習と講義で、美意識を高める</p>	<p>総合的芸術への指向 設計教育の重視 建築意匠のデザイン力を重視 建築デザイン教育 造ることの意味</p> <p>個性教育(4) 個々の想像力を伸ばす教育 個性を尊重 個性に合わせた多様な教育プログラム 学生のオリジナリティを育てる</p> <p>国際化教育(6) 国際社会の視座 国際感覚育成 海外体験 グローバルな視野をもつ専門家の育成 国際化 英語が話せるようになる</p> <p>姿勢教育(9) 人間形成 心身を鍛えて集中力をつける 学生が主体的に取り組む工夫 実現したいテーマに向かって目的を持って学ぶ 新しい分野への進出の可能性をサポート 社会性に満ちた教育 問題解決型 問題発見・自己解決型教育 システムのアプローチ</p>

教育方法・内容	
<p>総合的・融合的教育(20) 建築の技術分野と芸術分野を結合 建築学と都市工学の融合による包括的な環境造形デザイン教育 最新の技術と芸術美 各種デザイン専門教育の統合(建築、ランドスケープ、保存、都市計画) 工学と芸術の融合による高度な技術水準と芸術的感性を育てる教育 デザインの素質と実践的経験 都市と自然のバランスある計画 文理融合型教育 工学と芸術に重点をおいたカリキュラム 芸術的・実用的・構造的要素を総合的に学ぶ ホリスティックな建築教育 建築に対する哲学性や芸術性を併せた教育 設計製図・ワークショップ・実務演習・コンピュータ、4本の平行する柱 歴史・設計・環境・芸術 都市・集落・住居・人間 構造・力学・設備・技術 構法・計画・再生・分析 調査・検証・実験・発想 先端技術・基礎学力・応用力 分析と総合のバランス</p> <p>基礎教育(14) 基礎技術 基礎の修得 多様な専門領域に対応した基礎的建築教育 基礎科目で建築学の全貌を理解する 建築や住環境に関するあらゆる分野を幅広く研究する あらゆる角度から建築の本質にアプローチ</p> <p>快適で安全な空間づくりのために幅広い知識・技術の修得</p> <p>段階的で多面的な授業の展開 様々な角度から暮らしを科学 幅広い知識の習得 リベラルアーツ型教育 人間＝環境デザインの基本 ヒトの生活・行動を理解する基礎的素養の養成 ステップアップ前の基礎教育の重視</p> <p>専門教育(9) 進路・習熟度別教育 専門分野別授業 豊かな地球環境と社会基盤を築くための専門教育 居住環境形成のデザインプロセス 居住環境として安全かつ快適な建築物を構築するための教育</p> <p>技術・知識と表現力にバランスのとれたデザイナーの育成 構造設計について本格的に学ぶ 耐震建築の追究 環境デザイナーの育成 アトリエ方式</p> <p>演習・体験・実習教育(20) 工学的現象、意匠的な作法に触れる実験・演習 実習を交えた多方面からのサポート 体系プログラムと独自構成プログラム 体験 実習・演習等の体験重視 演習重視 実習・演習による興味・関心の喚起 演習・実習の充実</p>	<p>意匠演習による設計導入教育 演習カリキュラムを柱</p> <p>建築計画演習や都市計画演習でのフィールドサーベイ 実践的な実験・実習教育で、創造性豊かな建築家を育てる 実践力に重点をおいたカリキュラム</p> <p>体験学習(製図・実験・演習)を重視した教育体系</p> <p>ワークショップ 実践的な教育 実践的内容 体験重視 プレゼンに強い気風を養う模型づくりの共同作業 建築経験主義 現場第一主義の指導</p> <p>学外教育(7) インターンシップ科目 インターンシップや内外セミナー参加 大学の中にとどまらず外に出て学ぶ 学外や社会との連携 学外での演習、実験、オープンデスク 産学協同研究への参加 社会に積極的に対応できる人材の養成</p> <p>ものづくり教育(5) ものづくり 「ものづくり」を重視した基礎的な建築教育 クラフト・造形教育に力点 独創的なモノづくり 造形デザインによる導入教育</p> <p>学生交流(3) 学生との交流 学生・教授間の親密な交流 「ともに学び、語り、考える」ふれあい教育</p> <p>コンピュータ・情報処理(10) CAD、CGをマスター コンピュータ技術の修得 コンピュータに強くなる 情報処理技術 情報化時代対応能力育成 コンピュータリテラシー教育 情報教育の徹底 マルチメディアによるデザイン思考を推し進める教育 建築教育の情報化</p> <p>時代の最先端のCAD・情報教育</p> <p>伝統・地域(9) 伝統や文化 歴史教育の重視 北陸の古都、金沢市をステージとして学ぶ 風土や人間生活との調査めざし広域におけるデザインを重視 日本の伝統工法を学ぶ アジア 地域に出て学ぶ 地域密着教育 身近な環境問題と地域づくりのあり方を重ねあわせる</p> <p>環境(3) 環境倫理 地球環境配慮型教育 環境問題</p>
<p>その他(12) マネージメント(施設・都市の維持管理・経営) プランニング(都市・地域の計画) デザイン(建築・地区の設計) 建築設計製図 JISに準拠した製図の徹底 ノート取りの達人</p>	<p>都心型キャンパス ゼミナール形式 マネージメント力 かゆいところに手がとどく 助手と教授のペアによる設計指導 出身学科を問わず履修できる体制</p>

カリキュラム

カリキュラムの分析は、十分なデータが得られた国公立大学 14 校（学科） 私立大学 22 校（学科） 計 36 校を対象とした。

(a) 開講単位数

開講科目数は国公立大学、私立大学ともに大きな差はないが、単位数は、私立大学の方が 10 単位程度多い。科目数の最大、最小はいずれも私立大学のある学科において 110 科目、33 科目、単位数の最大、最小はいずれも私立大学のある学科において 220 単位、62 単位である。

科目・単位

	国公立	私立	全体
開講科目数	66.3	67.3	66.9
開講単位数	133.8	142.3	138.8

(b) 座学と実習科目の単位割合

座学（講義・演習）の単位割合は、国公立大学の方で若干多く、逆に実習科目（設計製図、設計実習、実験、卒研）の単位割合は、私立大学で若干多い。

座学と実習科目の割合がほぼ 50:50 の学科も 2 学科あり、60:40 の学科が 11 学科あった。

座学・実習

	国公立	私立	全体
座学単位割合	70.5	65.9	67.8
実習単位割合	29.5	34.1	32.2

(c) 科目構成

既往の分類^{※1}を利用し、科目構成の分析を行った。分類は以下の 8 分類とした。

【総合系】概論系、歴史意匠系

【計画系】計画系

【環境・設備系】計画原論系、設備系

【構造・材料系】構造系、材料系

【知識・ツール系】知識系：建築に必要な知識科目、周辺の学問領域、ツール系：コンピュータ、CAD

【関連科目】関連科目：専門カリキュラムとして設定されている一般教育科目や他学科の科目

【実習・製図・卒設・卒研】

【その他】その他の科目

計画系の単位割合は、国公立大学、私立大学とも 1 割程度である。構造・材料系の単位割合もほぼ同程度であった。関連科目、実習・製図において、両者の割合が異なる他は、分類別の単位割合は同じような傾向であるといえる。

分類別単位数

(単位)

	国公立	私立	全体
総合系	6.6	10.1	8.7
計画系	13.1	15.5	14.5
環境・設備系	9.5	9.6	9.6
構造・材料系	21.5	22.6	22.1
知識・ツール系	13.1	15.3	14.4
関連科目	29.5	18.0	22.6
実習・製図・卒設・卒研等	39.7	49.1	45.3
その他	0.8	2.1	1.6

分類別単位割合

(%)

	国公立	私立	全体
総合系	5.3	7.0	6.3
計画系	10.1	11.0	10.6
環境・設備系	7.6	6.8	7.1
構造・材料系	16.9	16.1	16.4
知識・ツール系	9.2	10.8	10.1
関連科目	20.8	12.4	15.8
実習・製図・卒設・卒研等	29.5	34.1	32.2
その他	0.7	1.8	1.3

(d) 科目の必修と選択

平均値を比べると、必修と選択科目の割合は約 3 : 7 で、国公立大学、私立大学でそれほど大きな差はない。

個別にみていくと、必修と選択科目の割合がほぼ 50:50 という学科が 5 学科程度あり、卒研・卒設のみが必修でその他の科目はすべて選択科目という大学もある。

必修・選択単位

	国公立	私立	全体
必修単位数	43.3	39.0	40.7
選択単位数	92.0	103.3	98.9
必修単位割合	32.6	30.3	31.2
選択単位割合	67.4	69.7	68.8

分類別に必修科目の傾向をみると、必修の計画系科目は、国公立大学 5.4%、私立大学 8.8% で、私立大学の方が若干高い。国公立の方が高い割合を示す分野は関連科目の 13.3% であった。実習・製図は国公立大学、私立大学とも、5 割強が必修科目に位置づけられている。

分類別必修単位数 (単位)

	国公立	私立	全体
総合系	2.0	2.3	2.2
計画系	2.6	3.7	3.3
環境・設備系	2.5	2.7	2.6
構造・材料系	5.4	5.3	5.3
知識・ツール系	2.4	2.2	2.3
関連科目	7.2	3.5	4.9
実習・製図・卒設・卒研等	21.3	19.4	20.1
その他	0.0	0.0	0.0

分類別必修単位数割合 (%)

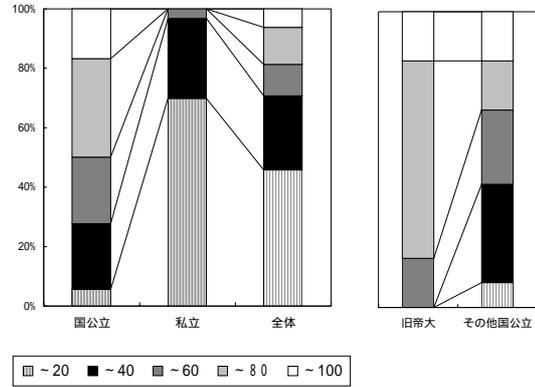
	国公立	私立	全体
総合系	5.2	4.8	5.0
計画系	5.4	8.8	7.4
環境・設備系	5.9	6.7	6.4
構造・材料系	11.1	13.9	12.8
知識・ツール系	5.4	4.6	4.9
関連科目	13.3	5.7	8.7
実習・製図・卒設・卒研等	53.7	55.6	54.8
その他	0.0	0.0	0.0

(%)

	国公立	私立	全体
必修座学単位割合	46.3	44.4	45.2
必修実習単位割合	53.7	55.6	54.8

の大学で進学率が60%以上なのに対し、私立大学では7割以上の大学で20%に満たない。それに対し、旧帝大系の大学ではほぼ7割以上の学生が進学する。

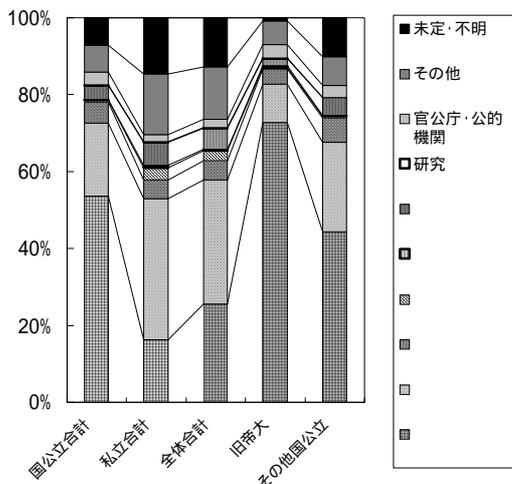
学部 進学率



卒業後の進路

卒業後の進路としては大学院・建設業への率が高い。国立大学と比べ私立大学では、学部卒業時での建設業・設計・コンサルタントへ就職する率が高いようである。また逆に、国公立大学では進学する率が高く、特に旧帝大系の大学を卒業した学生の内、70%近い学生が進学する傾向にある。

学部 卒業後進路



特に進学率に注目すると、国公立大学の半数以上

(2) 大学院（建築系）教育について

回答大学の種類

大学院教育について回答を得た大学は、計 50 校あり、その内訳は国立大学 23 校、公立大学 2 校、私立大学 25 校である。

そして、これら 50 校の中から十分なデータが揃っている約 30 校を中心に分析した。

回答大学院の種類

(a) 研究科一覧

研究科についてみると、国公立大学、私立大学とも、工学研究科・工学系研究科が多かった。

	国公立	私立	全体
工学研究科・工学系研究科・工学府	15	20	35
理工学研究科・総合理工学研究科	3	1	4
芸術工学研究科・造形研究科	1	2	3
環境学研究科・人間環境学研究科	2	0	2
自然科学研究科	2	0	2
生活科学研究科	1	1	2
都市科学研究科	1	0	1
社会理工学研究科	1	0	1
計	26	24	50

(b) 専攻一覧

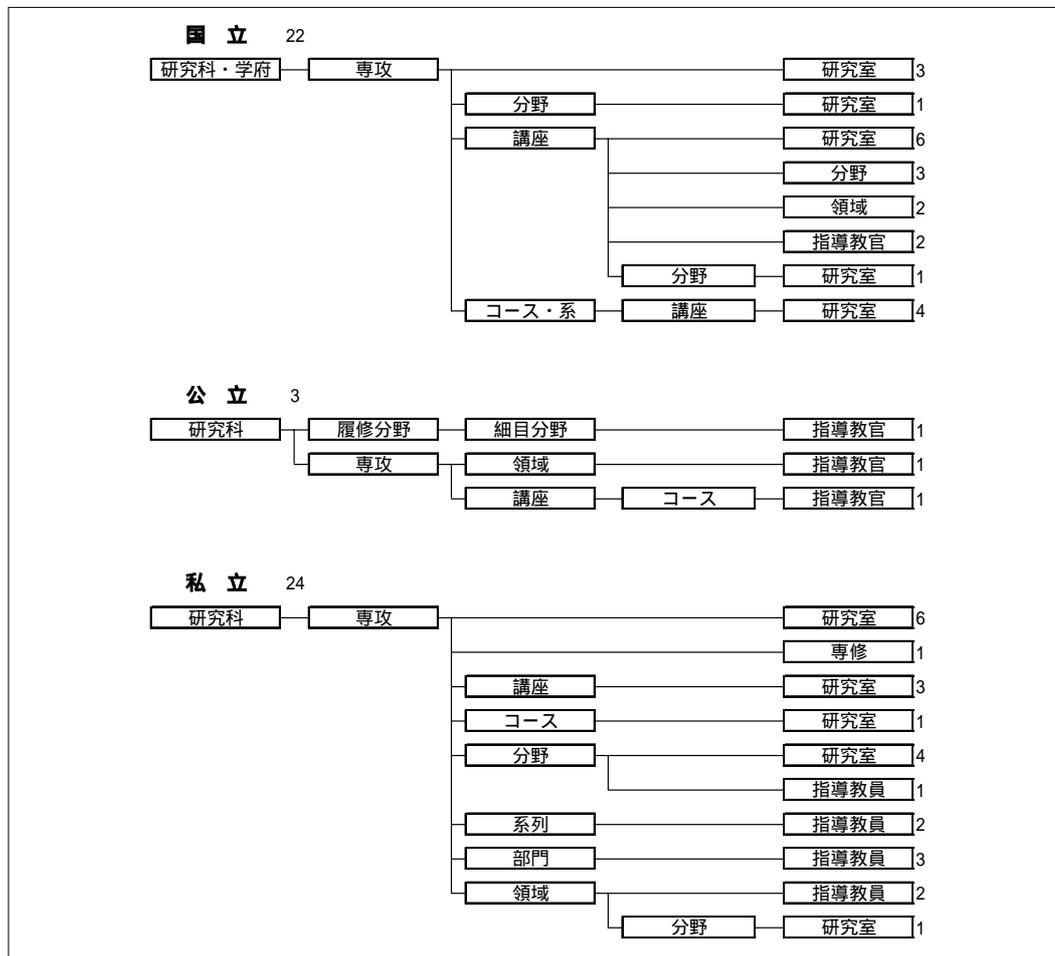
専攻別では、全体として建築学専攻が多く、特に私立大学で多くみられた。国公立大学では、社会工学系、環境系の専攻も同程度あった。

	国公立	私立	全体
建築学専攻	4	11	15
建築工学専攻	1	0	1
建設工学専攻	2	4	6
都市・建築学専攻	2	0	2
都市工学系の専攻	2	0	2
芸術・美術系の専攻	1	1	2
土木・構造系の専攻	0	2	2
社会工学系の専攻	4	1	5
環境系の専攻	4	2	6
その他	6	3	9
計	26	24	50

組織体系

研究科から最小単位である研究室や指導教員に至る、組織体系を大学別に図示した。

国立大学では「研究科 専攻 講座 研究室」という体系、私立大学では「研究科 専攻 研究室」という体系が、比較的多く見られたが、体系は大学ごとに多様であることが伺われた。



講座・研究室

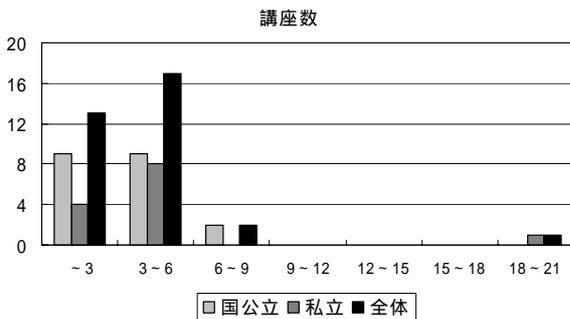
ここでは、講座や研究室の量的な実態（特に計画系について）を把握しデータ化した。

(a) 講座数・研究室数

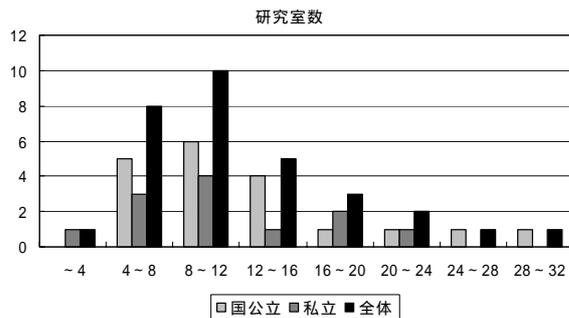
講座数、研究室数ともかなりのばらつきが見られるが、講座数は2から6、研究室数は6から14程度に集中している。講座数には国公立と私立との差はみられないが、研究室数では国公立が7から10に集中しているのに対して、私立ではこの間に該当するものがなかった。

	講座数	研究室数
最小	2	4
最大	21	31
平均	4.5	12.5

講座数



研究室数



(b) 計画系講座・研究室の割合

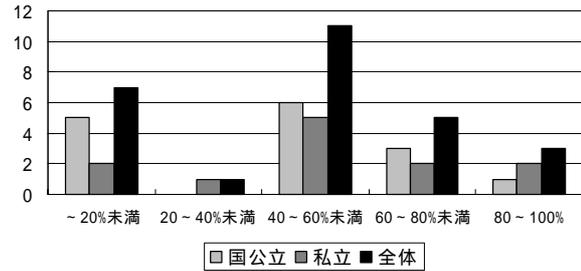
建築計講座中の計画計講座の割合は、60%前後に集中している。ただし、大学によっては計画系、構造系、その他の分野の研究室が混ざった、独自の分け方で講座を置くところもあり、こうした大学が20%以下の内大部分を占めている。

建築系研究室中の計画系研究室の割合も60%前後に集中しており、多くの大学では計画系の研究室が半分以上を占めている。

建築系講座中の計画系講座の割合

	国公立	私立	全体
~20%未満	5	2	7
20~40%未満	0	1	1
40~60%未満	6	5	11
60~80%未満	3	2	5
80~100%	1	2	3
計	15	12	27

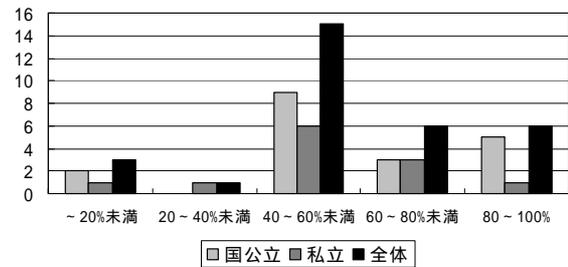
建築系講座中の計画系講座の割合



建築系研究室中の計画系研究室の割合

	国公立	私立	全体
~20%未満	2	1	3
20~40%未満	0	1	1
40~60%未満	9	6	15
60~80%未満	3	3	6
80~100%	5	1	6
計	19	12	31

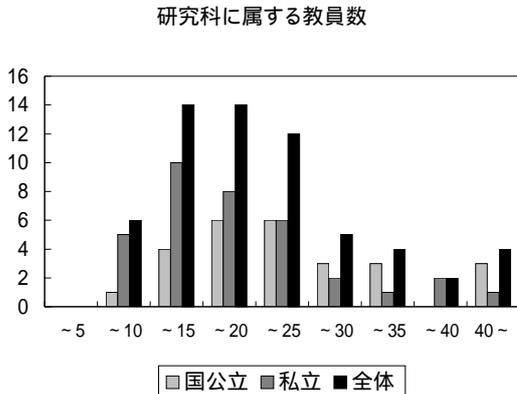
建築系研究室中の計画系研究室の割合



教官・教員

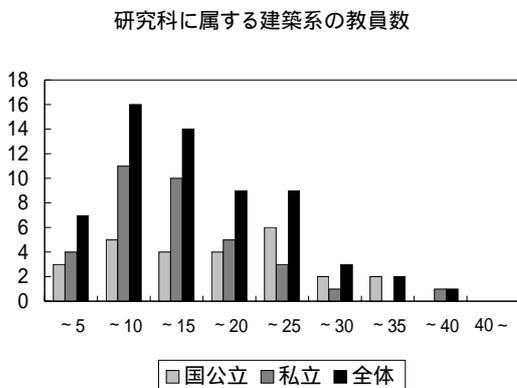
(a) 常勤教員数

常勤教員数の分布は国公立大学と私立大学で異なった分布を示した。国公立大学の場合、20人前後を峰とする分布を示すのに対し、私立大学の場合、10～15人を峰とした左に偏った分布を示している。



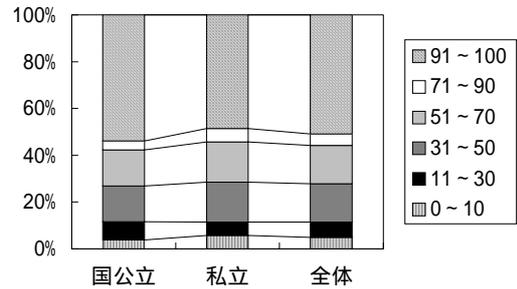
(b) 建築系教員数・教員の割合

学部と同様、私立大学ではほぼ「研究科に属する教員数」と同様な分布を示しているのに対し、国公立では分布が左側に片寄り、11～15人と21～25人の2つのピークを描くような分布となっている。



ほぼ半数の研究科に建築以外の教員が属している。学部と比べると、建築系以外の教員と同居している形の研究科が多くなっている。

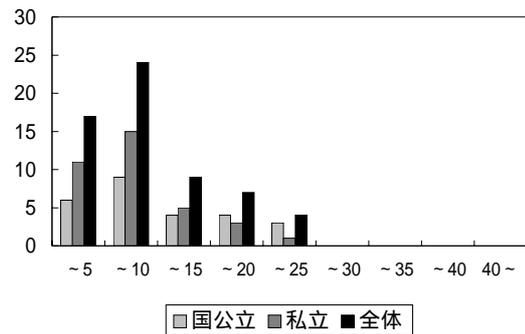
研究科 建築系教員比率



(c) 計画系教官数・教員の割合

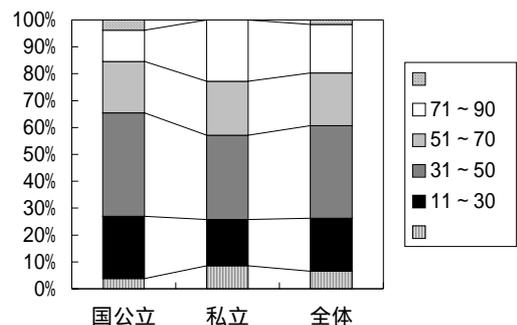
私立大学では計画系の教員人数が6～10人程度に集中している。国公立大学でも同様に6～10人に集中はしているがそれ以上の26～30人までほぼ均等に分布している。

研究科に属する計画系の教員人数



計画系教員の比率を見ると研究科の中で計画系の教員が半数以上を占める大学院は40%に満たない。学部と比べると計画系の比率が下がっていることが分かる。

研究科 計画系教員比率



学生

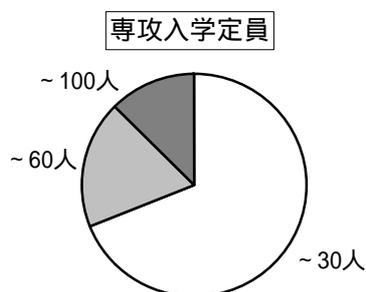
(a)専攻別入学定員・在籍数

専攻の入学定員は、30人以下の大学が68%と大部分を占めている。一学年の在籍数を単純に専攻在籍数の半分と考えると、ほぼ定員と合致する。

専攻別入学定員

	国公立	私立	全体
~30人	2	9	11
~60人	2	1	3
~100人	1	1	2
計	5	11	16

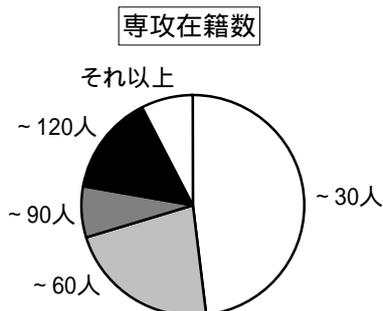
最大100、最小5、平均25.9



専攻別在籍数

	国公立	私立	全体
~30人	2	11	13
~60人	5	1	6
~90人	1	1	2
~120人	2	2	4
120人~	1	1	2
計	11	16	27

最大184、最小5、平均52.1



(b)研究室別定員・在籍数

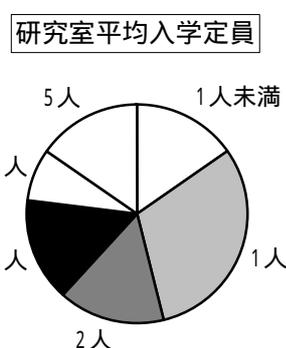
研究室に関するデータは少なく、定員数に関するものでは13校のみであった。必ずしも全体的な傾向をつかむものにはならなかったが、おおよそ次のような結果がみられた。研究室単位では、入学定員には最大5人、最小で0.7人、平均2.5人とばらつき

がある。学年平均在籍数は最大7人、最小0.6人、平均2.4人でほとんどが2人以下だった。

研究室別平均入学定員

	国公立	私立	全体
1人未満	0	2	2
1人	2	2	4
2人	1	1	2
3人	1	1	2
4人	1	0	1
5人	1	1	2
計	6	7	13

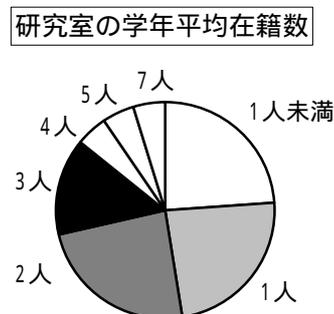
最大5、最小0.7、平均2.5



研究室別学年平均在籍数

	国公立	私立	全体
1人未満	0	5	5
1人	2	3	5
2人	4	1	5
3人	2	1	3
4人	1	0	1
5人	0	1	1
7人	1	0	1
計	10	11	21

最大7、最小0.6、平均2.4



(c)研究室別の学年人数の定員比

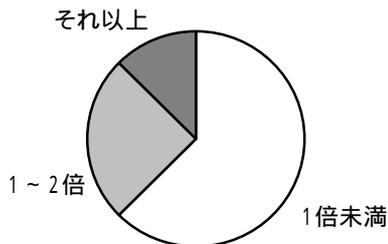
研究室の学年人数と定員との比は、最大で3.5倍という大学もあったが、1倍未満というところが多く、ほとんどが2倍以下だった。

研究室別の学年人数の定員比

	国公立	私立	全体
1倍未満	0	1	1
1～2倍	1	3	4
それ以上	2	1	3
計	3	5	8

最大3.5、最小0.4、平均1.2

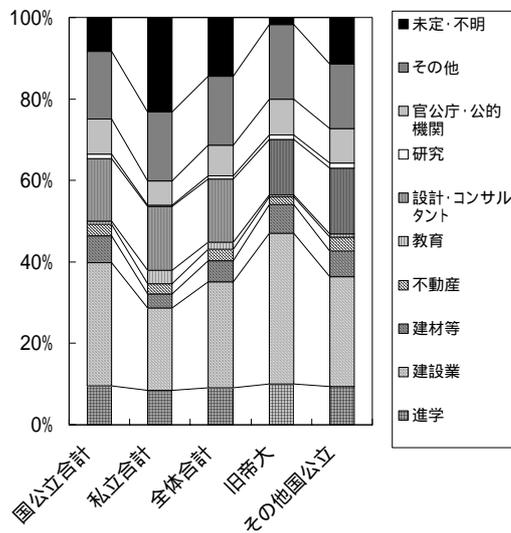
研究室の学年人数の定員比



修了後の進路

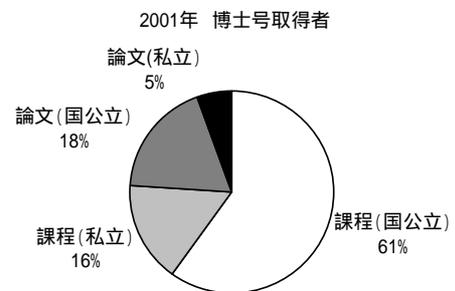
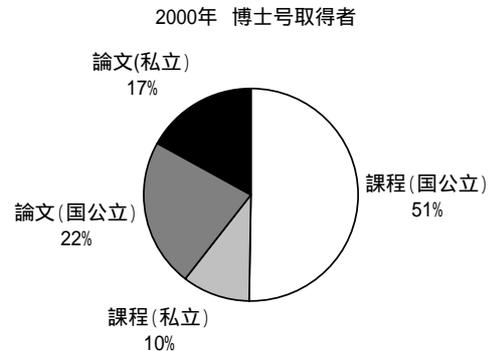
修士課程修了後の進路は建設業への就職率が私立大学のほうが若干少ない。他は、ほとんどの業種でも、国公立大学・私立大学、旧帝大系大学とその他の国公立大学の間で違いは見られない。

修士 修了後進路

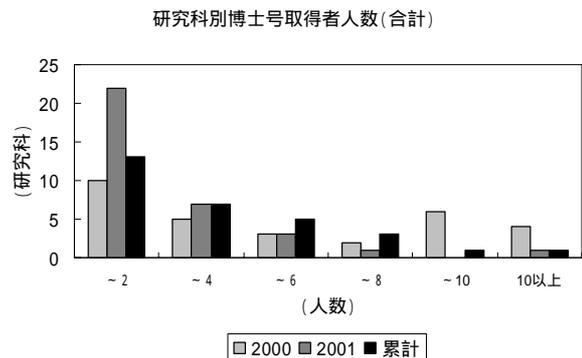


博士号取得人数

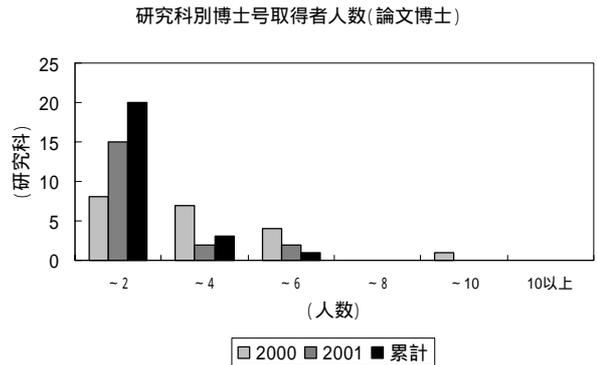
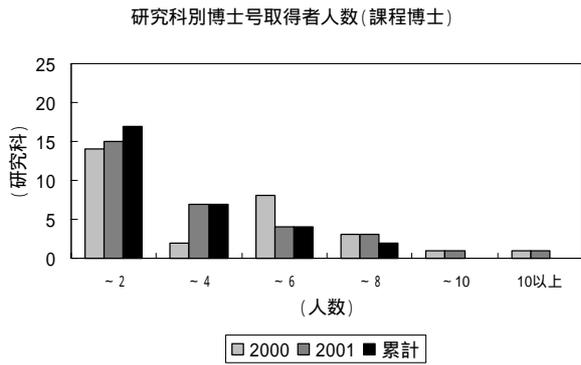
2000年、2001年とも博士号取得者のうち、過半は課程博士で、特に国公立の出身者が多い。



各大学院研究科の博士号取得者数を見ると、最も多いのは例年博士号取得者が1、2名といった研究科である。各年4人以下といった研究科で過半を占める。反対に10名以上の博士号取得者を輩出する大学院も数少ないが存在する。



課程博士では、全体のほぼ半分の研究科が各年2人以下の博士号取得者である。人数が増えるに連れ暫時減少し例年10名以上の博士号取得者を出すような大学院はごく少数である。平均的には1研究科あたり2～3人の博士号取得者を出している。



ほとんどの大学院研究科で、例年1、2名論文博士が出るか出ないかといったところである。多くても5名程度というのが一般的であるようだが、2000年には10名以上を出している研究科もある。平均的には1研究科あたり1人の博士号取得者を出している。

謝辞

今回の調査では、突然のお願いで、また短期間であったにも関わらず、多くの大学の皆様方に快くアンケートに応じていただき、また、貴重な資料も数多く提供していただきました。ご協力に対してまして、深く感謝申し上げます。

短期間で行った今回の分析では、必ずしも満足のいく考察まではいきませんでした。計画系教育を考える情報として役立てば幸いです。

調査・分析

千葉大学服部研究室

服部岑生 鈴木雅之 慎蒼樹 山田恵美
鍾易 山岸輝樹

参考文献

文献1：戸部栄一「カリキュラムの現状」『いま建築教育は - 大学における現状と課題 - 』、日本建築学会編、1993

回答大学一覧(地域別五十音順)

国公立大学		私立大学		
北海道大学	新潟大学	東北芸術工科大学	日本工業大学	大阪産業大学
東北大学	福井大学	東北工業大学	法政大学	京都精華大学
茨城大学	大阪大学	神奈川大学	前橋工科大学	近畿大学
千葉大学	大阪市立大学	関東学院大学	武蔵工業大学	神戸芸術工科大学
東京大学	京都大学	工学院大学	愛知工業大学	広島工業大学
東京工業大学	京都工芸繊維大学	国土館大学	愛知産業大学	九州共立大学
東京都立大学	京都府立大学	芝浦工業大学	椋山女子園大学	九州産業大学
横浜国立大学	大分大学	昭和女子大学	中部大学	崇城大学
名古屋大学	鹿児島大学	東海大学	金沢工業大学	長崎総合科学大学
名古屋工業大学	九州大学	東京工芸大学	長岡造形大学	西日本工業大学
名古屋市立大学	佐賀大学	東京電気大学	新潟工科大学	日本文理大学
三重大学	琉球大学	東京農業大学	福井工業大学	福岡大学
信州大学		東京理科大学	大阪芸術大学	
長岡技術科学大学		日本大学	大阪工業大学	